

安全の手引き（ブルキナファソ）

令和4年1月

在ブルキナファソ日本国大使館

I. 序言（はじめに）

2015年以降、ブルキナファソの治安情勢は急激に悪化しています。この手引きには、ブルキナファソにおいて、危険を事前に回避し、安心して滞在するために日頃心がけておくべきことが記載されています。ブルキナファソに来訪する場合には、この手引きを参考にして、治安情勢に関する最新情報を把握の上、十分な安全対策をお願いします。

II. 防犯の手引き

（1）防犯の基本的な心構え（3つの基本）

（ア）目立たない

高価な装飾品を身につけて外出したり、多額の現金を人目にさらすといった行為は、犯罪者の目を惹き、犯罪を誘発してしまうこともあります。

（イ）パターン化を避ける

犯罪者は、犯罪行為の対象者を十分観察し、計画を立ててから行動を起こすことが多いです。そのため、無関係の人に自分の行動を察知されないようにすることも重要です。

（ウ）警戒心を怠らない

外出時は常に周囲の状況を確認し、「何かおかしいな」と感じたときには、その場を離れるなど危険を予見・回避してください。

（2）犯罪発生状況

（ア）テロ情勢

2015年12月のカボレ政権発足後、北部サヘル地方及びその周辺地域でイスラム過激派による襲撃や誘拐が頻発し、2018年からは東部地方において、2019年からは中北地方において、治安機関等を標的とした襲撃事件が急増しています。また、コートジボワール国境地帯でもイスラム過激派の勢力が入り込んでいるとみられ、南西部や南部でも襲撃や外国人の誘拐が断続的に発生するなどテロ情勢の悪化に歯止めがかかっておらず、テロの発生範囲は拡大傾向にあります。2019年1月、政府は特に治安情勢が深刻なマリ及びニジェール国境地帯を対象とした非常事態宣言を発令しました。

首都ワガドゥグでは、2016年1月15日（金）夜にホテル及びカフェを襲撃する事

件が発生し、2017年8月13日（日）夜にはトルコ系レストランが襲撃され、外国人を含む多くの死傷者が発生しています。さらに、2018年3月2日（金）昼にはフランス大使館及び軍参謀本部施設が襲撃され、イスラム過激派が犯行声明を発出しています。

当地におけるテロの発生状況は下記のとおりです。（2021年6月、大使館調べ）

2015年 発生3件、 死者5名

2016年 発生15件、 死者63名

2017年 発生73件、 死者81名

2018年 発生93件、 死者113名

2019年 発生224件、 死者765名

2020年 発生269件、 死者802名

2021年 発生122件、 死者817名（6月末現在）

（イ）一般犯罪情勢

首都ワガドゥグにおいて、2018年6月、邦人が何者かによって自宅で現金を強奪される事件が発生しました。2019年8月には、金融機関で多額の現金を引き出した中国人が車で移動中に現金を奪われています。2020年に入ってから、ジョギング中の欧米人が強盗被害に遭うなど外国人を狙った路上での強盗事件が多数発生しています。都市部において、最も多発している犯罪はひったくり、スリ、車上ねらい等の窃盗事件・強盗事件であり、商店街やバスターミナル等多くの人が集まる場所や銀行付近で頻繁に発生しているほか、人気の少ない場所や日没以降の発生も増加しています。

地方においては、治安機関の体制が手薄となり、人通りが少ない幹線道路において通過車両を待ち伏せて金品を奪う強盗団が出没するなど凶悪事件の発生が度々見られます。

一方、当地治安当局は、上記治安情勢に十分対応できる人員や装備の確保ができておらず、不十分な体制での治安対策を強いられており、犯罪抑止や被害時の対応において多くを望むことはできない状況です。

（3）具体的注意事項

○ 住居の安全対策

- ・必ず本人が建物を下見し、安全面で納得のいく物件が見つかるまでは妥協しない。
- ・窓、扉に鉄格子が設置されているか確認する。
- ・外周部（隣家を含む）から簡単に侵入できない構造になっているか確認する。
- ・警報装置等の設置の有無（無い場合は設置の可否を確認する）。
- ・夜間や周辺道路の状況を確認する。（街灯の有無や道路が冠水しないか等）

- ・毎日の行動ルート（通勤・通学・買い物等）は安全のため複数あるか確認する。
- ・隣近所との良好な関係作りを行う。
- ・非常時に持ち出すものを選んでおく。
- ・出入り口の鍵は複数設置することが望ましい。

○ 外出時の安全対策

- ・玄関、門扉の開閉時には周囲の安全を確認する。
- ・外出時は場所・目的にあった服装で、貴重品や必要のない物はできるだけ持ち歩かない。
- ・できるだけ複数で行動し、目的地が近くても車を利用する。
- ・徒歩や自転車で移動する場合、後方から近づいてくる車両に注意する。
- ・人通りの少ない場所、暗い場所等を避ける。
- ・夜間の外出はできるだけ避ける。
- ・言い寄ってくる相手には警戒する。
- ・駐車する場合には、できるだけ見張り人がいるところに駐車する。
- ・車内の見えるところに物を残さない。
- ・乗車、降車の際には、周囲に注意を払う。
- ・レストランやスーパーでは常に出入口付近の動向に気を配り、非常口の位置を確認しておく。
- ・むやみに写真や動画を撮影しない。
- ・むやみにドローンを飛ばさない（2018年12月、邦人旅行者がドローンを飛ばして動画を撮影していたところ、憲兵隊に拘束された事案あり）。
- ・遠出する場合、行き先の安全情報を大使館等に必ず確認し、行き先を誰かに伝えておく。

○ 生活上での安全対策

- ・一軒家に居住する場合は、できるだけ警備員を配置する。（24時間配置が望ましい）
- ・警備員を過信しない（安易に鍵や貴重品を預けない）。
- ・心当たりがない者が訪問してきた場合、絶対にドアを開けない。
- ・使用人や運転手等を雇用する場合、身元を確認し行動には注意を払う。
- ・携帯電話等を常に持ち歩き、緊急時にいつでも連絡を取れるようにする。

（４）交通事情と事故対策

当国においては、飲酒運転、反対車線走行等が頻繁に行われており、整備不良車両が多く見られるなど日本とは大きく事情が異なります。そこで、以下の点に注意し、交通事故にあわないようにしてください。

○ 車を運転する場合

- ・車両の整備・点検を励行する。
- ・走行中は、自分に合った車間距離、速度で運転し、安全運転に徹する。
- ・夜間はハイビームが基本、周囲の状況によって、ロービームを使用する。
- ・夜間は歩行者、無灯火の車両、バイクに注意する。

○ 運転手を雇う場合

- ・車両整備知識がない者、ペーパードライバーが多いことに留意する。

○ オートバイ、自転車を使う場合

- ・後方からの追い越し車両に注意する。
- ・周囲のオートバイ、自転車の流れに逆らわない。

○ 歩行者の場合

- ・信号が青であっても、左右の安全を確認する。
- ・常に周囲の車両の動きに注意する。

(5) テロ・誘拐対策

(ア) テロ対策

過去にワガドゥグで発生したテロ事件等の特徴は以下のとおりです。

- ・週末（金曜日含む）や休日の夜間等、多くの人が集まる時間帯で発生
- ・外国系レストラン、カフェ、高級ホテル等、多くの人（特に欧米人）が集まる場所で発生
- ・フランス関連施設、政府関連施設（特に治安関連施設）で発生
- ・市内（ライヨンゴ地区）でテロリストの拠点を摘発

屋外で行動する場合、このような時間・場所を意識的に避けることでテロや取締りに巻き込まれる危険性を低下させることができますが、夜間は場所にかかわらず、周囲の状況に常に注意し、万が一の際には臨機応変に行動することが求められます。

ワガドゥグ以外の地域では、特に北部及び東部ではテロが頻発し、近年は発生地域が拡大している上、治安機関の体制も手薄であるため、事前の情報収集を十分に行いテロ発生地域に立ち入ることは絶対に止めてください。

(イ) 誘拐対策

2018年12月、ボボデュラッソを出発したカナダ人、イタリア人が誘拐される事案が発生（2020年3月マリ北西部で解放）したほか、2019年1月には、サヘル地方においてカナダ人が誘拐され、翌日遺体で発見されました。同年5月には、ベナンのブルキナファソとの国境周辺地域においてフランス人2名が誘拐され、ブルキナファソ国内で仏の特殊部隊に救出されました。その際に別途誘拐されていた米国人および韓国人も救出されました。同年11月には、南西部で中国人が誘拐されており（翌

日解放)、また、2020年10月にはブルキナファソ東部国境近くのニジェール国内で米国人が武装勢力に拉致(ナイジェリア国内で救出)された事案が発生、2021年4月には、東部地方において、密猟対策のパトロールが襲撃され、同行していたスペイン人2名、アイルランド人1名が誘拐され、その後殺害されました。誘拐はイスラム過激派による犯行であるとみられ、テロが多発している地域には絶対に近づかず、夜間単独での外出、地方への単独の移動は控えてください。

(ウ) その他の対策

テロ情勢の悪化に伴い、政府による治安対策が強化されており、市街地や主要道路ではパトロールや検問が頻繁に実施されているほか、夜間外出禁止令が発出されている地域もあります。通行中の外国人が尋問や所持品検査を受けることも多く、身分証を所持していなかったり、危険物を携帯していたりすれば危険人物と見なされる可能性があります。また、警察や憲兵隊の指示を無視した者が発砲された事案もあり、治安当局の指示には従うことはもちろん、当局による取締りに巻き込まれないようにする注意も必要です。

(6) 緊急連絡先

○ 大使館関係

在ブルキナファソ日本国大使館

電話：(226) 2537-6506、6509

Fax：(226) 2537-6581

領事窓口時間 8：00～12：00、14：30～15：30

休館日：大使館ホームページ (<http://www.bf.emb-japan.go.jp>) をご覧ください。

○ 警察 (日本の110番) 17

VERT (警察と憲兵隊の組織) 1010

憲兵隊 16

ワガドゥグ中央警察署 2530-6382

○ 消防・救急車 (日本の119番) 18

○ 一般病院等

(ア) Clinique Les Genêts Plus

住所：Ouaga2000 (日本国大使館の近く)

TEL：2537-4323、2537-4737

(イ) Clinique Médicale Les Flamboyants

住所：295 Avenue John Kennedy Secteur 4 Koulouba (ゲンゲン地区)

TEL：2530-7600

(ウ) Centre Médical International

住所：21 Rue Nazi Boni（フランス大使館裏手）

TEL：2530-6607（緊急時：7020-0000）

(エ) Polyclinic International de Ouagadougou (PCIO)

住所：Ouaga2000（米大使館近く、CT設備あり）

TEL：2537-5100

(オ) ERAS（歯科）

住所：Avenue Kwame N' Krumah Immeuble Nasa 2e etage Porte gauche

TEL：2531-3614

(カ) Pharmacie de l' Hopital（薬局、24時間営業）

住所：Secteur 4（国立病院前）

TEL：2530-6641

○ フランス語による緊急連絡用語

(ア) 路上で襲われたとき

「襲われました」 On m' a agressé!

「すぐに来てください」 Venez tout de suite、s' il vous plaît.

「私は〇〇にいます」 Je suis à 〇〇.

(イ) 自宅に強盗（泥棒）が入ったとき

「強盗（泥棒）に襲われました」 On m' a cambriolé!

(ウ) 交通事故にあったとき

「交通事故を〇〇（〇〇の近く）で起こしました」

J' ai fait un accident de la route sur 〇〇 (côté de 〇〇).

「私は怪我をしています」 Je suis blessé.

(エ) その他

「助けて！」 Au secours !

「泥棒！」 Au voleur !

「火事だ！」 Au feu !

Ⅲ. 在留邦人用緊急事態対処マニュアル

(1) 平素の準備と心構え

緊急事態（クーデター、暴動、テロ、大規模事件・事故・災害等）が発生した場合、当館は邦人保護に万全を期すため、関連情報を収集し、随時在留邦人の皆様へ連絡します。また安否確認のために、ご自身の状況につき当館へご一報願います。日頃から通信不能・移動不能になる事態も想定し、下記の心構えをお願いします。

(ア) 食料・燃料の備蓄

緊急時には、一定期間自宅待機等が必要になる場合があります。また、食料やガソリン等燃料が売り切れになり購入できなくなる恐れもあります。平素から非常

用食料、飲料水、医薬品、燃料等を確保するようにしてください。

(イ) 避難場所、避難経路の確認

暴動等に巻き込まれる可能性がある場合は、常に周囲の状況に注意を払い、情報を収集し危険な場所に近づかないよう心がけてください。暴動等に巻き込まれそうになった場合の取り敢えずの避難場所について、常日頃から頭に入れておくことが重要であり、自分がどこにいるか（勤務先、通勤途上、自宅等）、自分がどのような事態に巻き込まれそうか等、幾つかのケースをあらかじめ想定して各自の一時避難場所（外部との連絡が容易に行える場所が望ましい）を検討してください。

(ウ) パスポート等の管理

パスポート、現金、貴重品等最低限必要なものは、いつでも持ち出せるよう準備しておいてください。

(エ) 在留届、たびレジの登録

3か月以上滞在する方は、在ブルキナファソ日本国大使館が緊急時の連絡先を確認できるよう、必ず在留届を提出してください

(<https://www.ezairyu.mofa.go.jp/RRnet>)。

3か月未満の旅行や出張などの際には、渡航先の最新安全情報や、緊急時の在ブルキナファソ日本国大使館からの連絡を受け取ることができるよう、外務省海外安全情報配信サービス「たびレジ」に登録してください

(<https://www.ezairyu.mofa.go.jp/tabireg/>)。

(2) 緊急時の行動

(ア) 緊急時の行動

外出時に緊急事態が発生した場合は、速やかに自宅に戻る、或いは知人宅等に避難するなど、周囲の状況を確認してから移動するよう落ち着いて行動してください。

(イ) 緊急避難場所

在留邦人の緊急退避場所として、状況に応じ大使館または大使公邸を想定しています。自宅からの経路を確認しておいてください。

(ウ) 国外退避

(i) 騒乱等の発生により、在留邦人の生命、身体に危険が生じるおそれがあり、必要と判断した場合には「退避勧告」等の危険情報を発出します。

(ii) 国外退避の場合、航空便（商業便）の利用を優先しますが、状況に応じてはチャーター航空便、あるいは陸路による移動も想定されます。可能な限り航空便（商業便）が運行しているうちに退避してください。

(iii) 緊急避難及び国外退避等の場合、大使館では可能な限り支援しますが、基本的

には自力で集合場所まで来て頂くようお願いいたします。その際の携行荷物は必要最小限の手荷物程度にまとめるようにしてください。

(3) 緊急事態に備えてのチェックリスト

- (ア) パスポート、イエローカードの確認
- (イ) 航空券の手配または航空便予約
- (ウ) 現金の準備（現地通貨及び外貨）
- (エ) クレジットカードの確認
- (オ) 退避手段の再確認（陸路の場合、自動車の整備及びガソリンの確認等）
- (カ) 非常用物資（食糧、飲料水等、ラジオ、懐中電灯、乾電池、常備薬等）
騒乱等の発生に備え、最低でも1人が1週間程度の籠城に耐え得る食糧、飲料水、懐中電灯等の非常物資を準備しておいてください。
- (キ) 携帯電話やメール等の連絡手段の確認
- (ク) 新型コロナウイルス対策として、PCR検査ができる場所の確認

(4) 緊急連絡網

大使館では緊急時に備え邦人緊急連絡網を作成していますので、皆様の連絡先に変更等が生じた場合は速やかに在留届のオンライン変更手続きをとるか、直接大使館に連絡してください。

IV. 結語（おわりに）

ブルキナファソの治安情勢は、近年悪化傾向となっています。これまで安全だった、以前は何事もなかった、事件の発生は聞いたことがない、というような地域がこれからも安全であるという保証はありません。治安情勢を十分に把握していない場合は、安全に対する致命的なリスクとなる可能性がありますので、この手引きの内容はもちろん、常に最新の治安情報を念頭に置いて行動する必要があります。また、治安部隊の能力には限界がありますので、万が一の際には通報してもすぐに助けてもらえる可能性は低いことを十分に認識してください。ご不明な点がございましたら、大使館にご連絡ください。（了）